

カリキュラム・マップ(ディプロマ・ポリシーに対する科目の位置付)

学部名	社会科学部	学科名	経営社会学科
-----	-------	-----	--------

経営社会学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	実社会で活躍するために必要な一般教養や社会学を中心とした専門分野(情報・経営・社会)に関する知識を備えている。
DP2	思考・判断	論理的、合理的思考に基づいて判断できる冷静さと人の気持ちを思いやることのできる余裕を兼ね備え、常に自ら考える主体性を持っている。
DP3	技術・行動	対人関係を理解し、他者からも信頼されることができコミュニケーション技術や行動力を身に付けている。
DP4	態度	社会や組織の中で、他者の立場も考慮でき、問題解決に積極的に立ち向かう姿勢を持っている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身につける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識を学ぶ。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎			
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部署より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。			◎	○
	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	大テーマ:大学生生活になれる、学びの習慣をつける 到達点:生活リズムができ、落ち着いて学べる環境をつくること。教員や先輩、留学生、同期入学生とのコミュニケーションはとれるようになること。				◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のために具体的能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。			◎	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけさせることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように指導し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得させる。 本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	◎			
		情報処理Ⅱ	2	3	コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトおよびネットワークの基礎概念や社会情報学の基礎、セキュリティ保護の考え方等、いわゆるリベラルアーツとしての現代のコンピュータリテラシーを理解させることを到達目標とする。 情報処理Ⅱにより情報処理の基礎やオフィスアプリケーション操作を一通り理解した学生が、さらにコンピュータを活用した社会に適応する上で必要な概念と関連技術・用語について理解を深めるためのものである。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	◎		○	
	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	この授業では高校までの主な文法事項は確実に理解でき、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。実力を今一度強固なものにするために文法的な復習、単語なども確認しますが、それと同時に聞き取りの実力、クラスによってはシャドーウィングなどを取り入れ、読むには実力的に問題なくても話せる力に近づけるよう指導します。そうすることで高校の英語とは一ランクが上の実力をつけるようにします。予習、復習を義務づけ実力がついたと実感できる程度に自分なりの意識を持ちながら授業に臨んでいただきたいと思っています。	◎		○	
		英語Ⅱ	2	1	この授業では英語もさることながら内容にも目を向けて大学生としてどのようなことに今後取り組んでいかなければならないのかを英語を通して考えていってもらいたいと思います。前期同様に高校までの主な文法事項は確実に理解出来、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。内容は健康問題から温暖化問題など、新聞やテレビでも扱われている内容が多く興味を湧かせると思います。是非ともニュースには常に関心を払っておいて下さい。授業内容の理解の手助けになるとと思います。	◎		○	
英語Ⅲ		2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	◎		○		
英語Ⅳ		2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	◎		○		

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	フランス語Ⅰ	2	1	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」をテーマとし、大学で始めて第二外国語としてフランス語を学ぶ学生が、初歩的なコミュニケーション技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ。日常的によく使われるフランス語の例文を覚えて話せるようになることを目標とする。	◎		○	
		フランス語Ⅱ	2	1	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(基礎編)。フランス語を学び始めて半年経った学生が、半年後に「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルに到達するために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	◎		○	
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前編)。フランス語技能検定5級を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎		○	
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・後編)。「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルが到達目標である。そのために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	◎		○	
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	◎		○	
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な一歩となっている。	◎		○	
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎		○	
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎		○	
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎		○	
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎		○	
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前編)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。	◎		○	
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。	◎		○	
		日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎		○	
		日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎		○	
日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎		○			
日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎		○			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	応用日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎		○	
		応用日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎		○	
		応用日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎		○	
		応用日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎		○	
		日本語研究ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎		○	
		日本語研究ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎		○	
		日本語研究ⅡA	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	◎		○	
日本語研究ⅡB	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	◎		○			
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受験に対しての指導も合わせて行う予定である。	◎	○		
		文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。	◎	○		
		美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方があり、1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。	◎	○		
		音楽のたのしみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々な場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。	◎	○		
		生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。			○	○
生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。			○	○		

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。	○	◎		
		宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。	○	◎		△
		倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。	○	◎		△
	世界認識・自己理解	心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。	○	◎		△
		多文化理解	2	1~4	テーマ：本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標： 様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。	◎	◎		○
	社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎	○		△
		民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	◎	○		△
		経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つということである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	◎	○		
		社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。	◎	○	○	△
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ：世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。	◎	○	○	
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を事例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	◎	○	○	
		自然と数理	環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	◎	◎	
物理学	2		1~4	物理の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。	◎	◎			
生物学	2		1~4	[テーマ]:最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]:人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生動物などがあることが分かる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双生児の1卵性と2卵性の違いを理解する。	◎	○			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
		化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点におき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。	◎	○		
		人類生態学	2	1~4	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができる。	◎	○		
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用を目指す。	◎	○		
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得	◎	○		
		総合C群		1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。	◎	○		

カリキュラム・マップ(ディプロマ・ポリシーに対する科目の位置付)

学部名	社会科学部	学科名	経営社会学科
-----	-------	-----	--------

経営社会学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	実社会で活躍するために必要な一般教養や社会学を中心とした専門分野(情報・経営・社会)に関する知識を備えている。
DP2	思考・判断	論理的、合理的思考に基づいて判断できる冷静さと人の気持ちを思いやることのできる余裕を兼ね備え、常に自ら考える主体性を持っている。
DP3	技術・行動	対人関係を理解し、他者からも信頼されることができコミュニケーション技術や行動力を身に付けている。
DP4	態度	社会や組織の中で、他者の立場も考慮でき、問題解決に積極的に立ち向かう姿勢を持っている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
学科基礎科目	政治学	2	1	春	大学で政治の諸問題を学ぶ意義は、それを単なる評論ではなく、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことにある。しかし、政治に対する考え方は、きわめて多様であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、さまざまな政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力をもつことを期待する。この講義を受講すれば、大衆民主主義における政治的な出来事(選挙)の理解、すなわちその背景と要因や原因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が習得できるものとなる。特に、この講義では、社会的責任意識とその倫理性、そして生涯学習の重要性を強調することになる。	◎	○		△
	法学入門	2	1	春	大学で政治の諸問題を学ぶ意義は、それを単なる評論ではなく、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことにある。しかし、政治に対する考え方は、きわめて多様であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。ゆえに受講生には、さまざまな政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力をもつことを期待する。この講義を受講すれば、大衆民主主義における政治的な出来事(選挙)の理解、すなわちその背景と要因や原因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。そして、現代社会の一市民としての教養と姿勢が習得できるようになる。	△	○		◎
	経営学総論	2	1	春	到達目標は、この講義を通じて経営学の基礎知識、企業に関する基礎知識を習得し、それを活用して経営学の用語の説明、応用ができるようにすることが目標である。また、次のような能力が養成されることを目標にする。教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べられる力が養われる。企業経営の仕組みを調べて、それを整理し、まとめる力を涵養する。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。	◎		○	○
	英会話Ⅰ	2	1	春	「使える英語」への入門として、英語で考え表現するための基本的な語学力の強化を図る。実践英語Aを受講することによって大学生に相応しい知的な内容での会話・プレゼンテーション技能、文章読解および文章作成の技能が身に付く。	○		◎	△
	英会話Ⅱ	2	1	秋	さまざまな場面において英語でスムーズなコミュニケーションができるように、実用性に重点をおいた実践的な語学力の向上を図る。ネイティブの英語の速度についていけるよう、さまざまな視聴覚教材によってリスニングとボキャブラリーを訓練する。BBCやCNNといった国際報道の英語を聞き取り、その内容を把握しつつ、自らの意見を表現できるようになる。	○		◎	△
	韓国語Ⅰ	2	1	春	韓国語の文字構成(子音、母音)と音素、音節の構成原理(子音、母音の組み合わせ)を基礎から身につけ、読み書き能力を体系的に学習する。また、韓国語と関連する社会、文化、歴史、慣習などの背景をも学習する。最終的には、基礎文法や日常生活表現による自己紹介文の作成を目標とする。この講義を受講すれば、日本に近隣する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくれ、しかも韓国への一人旅もできる。	△		◎	○
	韓国語Ⅱ	2	1	秋	この実践韓国語Bの授業では、韓国語の文字構成(子音、母音)と音素、音節の構成原理(子音、母音の組み合わせ)を改めて身につけた上で、読み書き能力をさらに体系的に学習することを目指す。また、韓国語と関連する韓国の社会や文化、そして歴史と韓国人の慣習などの背景説明も行う。最終的には、基礎的な文法に基づいた簡単な文章の作成や日常生活の表現による自己紹介文の作成を目標とする。この講義を受講すれば、日本に近隣する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくれ、しかも韓国への一人旅もできる。	△		◎	○
	韓国語Ⅲ	2	2	春	この講義では、実践韓国語AかBで学習したハングル(子音、母音)、基礎文法、日常挨拶を中心に、各テーマに対応できる簡単な文書作りを目指す。また、各テーマに関連する韓国のさまざまな文化や歴史、習慣の背景について理解を深めながら、中級レベルの会話習得を目標とする。この講義を受講すれば、日本に近隣する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくれ、しかも韓国への一人旅もできる。	◎		○	○
	日本語と日本事情	2	1	春	留学生には、日本において社会生活をしていく上で、基礎的かつ必要不可欠な会話力が身につくことをテーマとしている。また日本人であっても、知らないしきたりや守らなければならないルール、年中行事等についての知識を学ぶことで、将来社会人になったときにより良い人間関係を築くことができるようになる。	○	○	○	○
	ビジネス日本語Ⅰ	2	1	秋	社会に出てからのさまざまな場面において、人間関係およびコミュニケーションがスムーズに運ぶよう、実用かつ実践的な日本語の向上を図ることをテーマとしている。あいさつ、身だしなみ、話しかた、電話のマナー、敬語の使いかた、社会人らしい行動と言葉遣い等を学ぶことによって、まず日本の一般的なマナーが身につくようになる。	○	○	○	○
ビジネス日本語Ⅱ	2	2	春	社会に出てからのさまざまな場面において、人間関係およびコミュニケーションがスムーズに運ぶよう、実用かつ実践的な日本語の向上を図ることをテーマとしている。名刺、接客、訪問、接待、会食、電話対応、ビジネスEメール、報告、連絡、相談、日本人の仕事観等を学ぶことによって、日本のビジネスマナーが身につくようになる。	○	○	○	○	
インターンシップ	2	3	春	授業は、基礎知識やマナーを修得するための講義と、実際に企業に出向いて行う実習により構成されている。この講義を受けることにより学生は企業における実習を経験し、社会人としての基礎知識を身につけるとともに、その後の大学生活を有意義に送るためにはどうすればよいか、自分で考え、自分で行動できる能力が身に付く。	◎	○	◎	○	

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
簿記Ⅰ	2	1	春	会計学の基礎Elementary Accountingとも言われる簿記の基本技術の習得をテーマとして、この簿記Ⅰでは「企業の決算書の作成過程を理解できるようになる」ことを到達目標とする。	◎			
簿記Ⅱ	2	1	秋	会計学の基礎Elementary Accountingとも言われる簿記の基本技術の習得をテーマとして、簿記Ⅱに引き続き簿記Ⅲにおいても(1)企業の決算書の作成過程を理解できるようになること、(2)日本商工会議所簿記検定試験3級合格もしくは同等レベルの知識を習得することを到達目標とする。	◎			
消費と社会	2	1	春	大量消費の行われる今日の社会はどのような仕組みで動いているのか、人間環境や社会環境、文化に対しどのような変化と問題を生じさせているのか、事例等から学ぶ。グループで身近なテーマに対する課題を取り上げて発表や討論を行うことで消費社会への関心と認識を高め、環境取り組みの持続的課題について自らの行動力を高めることを目標とする。	○	○	△	◎
環境経営概論	2	1	春	「戦略的環境経営の必要性と意義」をテーマとして、地球環境と企業経営の関係を学び、なぜ環境経営が必要なのかということについて考える。環境と経済及び環境経営の方法論の概要を学ぶことにより、2年次以降の専門科目に円滑につながる能力を身につける。		◎		
マーケティング入門	2	2	秋	この講義では、マーケティング戦略、事業領域と標的市場の選択、消費者行動分析、サービス・マーケティングなどを講義する。到達目標は、この講義を通じてマーケティングの基礎知識を習得し、それに基づいてマーケティングの用語を説明できるようにすることが目標である。また、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。	○	△	◎	◎
リーダーシップと経営者	2	1	秋	この講義は高梁市商工会議所の協力により、企業の経営者をゲストに招き、経営者としてのリーダーシップのあり方や、事業や仕事に携わった経験をもとに、講義を進める。毎回異なる外部講師によるオムニバス形式によって実施される。この科目の到達目標は多様な仕事内容や経営者の実像を把握できるようにする。	◎		○	○
経営管理論	2	3	春	この講義では、経営管理とは何か、管理過程論と官僚理論、科学的管理法、人間管理論、動機づけとリーダーシップ論などについて講義する。到達目標は、この講義を通じて経営管理論の基礎知識を習得、経営管理論の重要性を認識し、経営管理論の用語を説明、応用できる力を身につけるとともに、就職に役に立つようにすることが目標である。また、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義内容のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書を読み、資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。	△	○	○	◎
国際マーケティング論	2	2	春	この講義では、多国籍企業の経営、国際経営戦略、国際マーケティング、海外子会社の経営、組織戦略、外資系企業の経営などについて講義する。到達目標は、グローバル経営とグローバル市場について説明と応用ができるようになることである。また、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報力、計画力、分析力、判断力が養われる。	◎		△	○
台湾経済と社会	2	2	秋	異文化を理解し、国際関係を円滑に運ぶためには、国家・地域を形成している自然環境・社会環境・経済環境といったさまざまな事象を有機的に考察することが重要である。この講義では台湾の歴史、社会、文化、経済、環境等を学ぶことによって、台湾の特色や性質を探ることをテーマとしている。そうすることで、台湾と中国、台湾と日本、日本と中国等の東アジア全体、ひいては世界の未来を見据える視点が養えるようになる。	○	△	△	△
日本経済論	2	2	秋	この授業では、日本経済を捉える仕組みと現状、そしてさまざまな諸問題や課題について講義する。日本経済の現状をさまざまな視点から客観的かつ具体的に分析・説明し、その上でこれから取りこむべき課題を明らかにすることを目指すのである。到達目標は、日本経済の歩みを学びながら、日本企業の活動と労働問題、日本政府の財政・財政政策、金融・金融政策、日本の貿易や環境問題に対する基礎知識とその実用力が習得されることにある。この講義を受講すれば、日本経済を体系的に整理することだけでなく、その総合力や応用力をも身につけることができる。	◎	○		△
人的資源管理論	2	3	秋	この講義では、経営と人的資源管理、人的資源管理領域、キャリア・マネジメントとキャリア開発、非正規雇用の管理などについて講義する。到達目標は、人的資源管理に関する基礎知識と基礎理論を理解・習得し、人的資源管理の基礎的な用語が説明できるようにすることである。また、日本企業の人的資源管理の知識を身につけて、人的資源管理の諸問題への解決能力を高めることや就職に役に立つようにすることが目標である。講義の全体を通じ、日本企業における人的資源管理が、企業と社員双方の幸せを実現するように制度設計がされているか、そして、その目的どおりの制度運用がなされているか、などを学習する。	○	◎	◎	△
ベンチャービジネスと経済	2	2	秋	この講義では、ベンチャー企業の経済的意義、ベンチャー企業の歴史、起業戦略などについて講義する。到達目標は、この講義を通じてベンチャー企業の重要性を理解するとともに、ベンチャー企業の用語の説明ができ、ベンチャー企業の創業と経営ができる知識の習得を高めることにある。また、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義内容のノートをとることにより、聴く力、書く力、まとめる力がつく。また、教科書と資料を読み調べることによって、読む力、調べる力、考える力が身につけられるとともに、分析力、判断力を高める。	△	◎	△	○
知的財産経営概論	2	2	秋	知的財産に関する具体的なテーマに基づいて、特許などの出願書類について学び、特許出願の内容とはどのようなものか、特許権の権利範囲に関する特許請求の範囲とはどのような手順で作成するかについての理解を深める。受講生は特許や著作権など知的財産の経済的重要性と保護の重要性を理解する。		◎		○
経営心理学	2	3	春	「経営」という観念・行為を心理学的観点から総合的に捉え直してみる。生産性、マーケティング、サービス、就労環境、組織運営と管理等々、人vs人or組織の諸関係を維持・発展していく上での正と負の過程を検討する。これらの検討を通して個人の有能感やキャリア発達の醸成に資する講義にしていきたい。到達目標は経営的課題に対して心理学的視点から解決を試みる事が可能となる事である。		○	◎	
日本企業の経営	2	3	春	この講義では、日本企業と米国企業の経営の特徴、韓国企業の経営の特徴、日本企業の強さと弱さ、などを講義する。到達目標は、日本、米国、韓国の事情、企業の経営特徴に関する知識を習得し、それぞれの国の経営について説明と応用ができるようになることである。また、丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。	○	○	△	◎

経営科目

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
経営科目	広告原理	2	3	春	アニメーション文化は、多方面で市民権を確立しています。身近なコミュニケーション手法の一つである「広告」の中でも重要な表現手法となっています。「ブランド構築」「競合他社(製品・サービス)との差別化」「販売促進」として活用される企業・団体も多く存在しています。特に「キャラクター」との関連では親しみやすさを創出するものとなっています。この講義では、どのような経営戦略・マーケティング戦略の上で、広告の制作が行われているのかについて、実際のテレビコマーシャルや広告等を題材に実例を交えながら解説し、その理解を深めていきます。		△	◎	○
	経営倫理	2	3	春	「企業経営における経営倫理の必要性の理解」をテーマとし、倫理の観点から企業の存在意義を学んでいく。経営倫理の本質は企業の営利活動にどこまで倫理的な配慮を求めることができるかを明らかにすることである。本講は、持続可能な社会の構築における企業の役割を理解し、企業経営における倫理的課題を解決できる能力を身につけることを到達目標とする。	○	△	○	◎
	ブランド戦略と知的財産	2	3	春	知的財産に関する基礎から最近のトピックまでを学ぶ。企業や大学等の知的財産戦略について、必要事項の概要を把握し、理解を深めることができる。	◎			
	アジアビジネス戦略	2	3	春	本講義ではアジアビジネスを成功させるために必要なアジアビジネスの環境、消費市場、最新動向を詳しく説明する。これによって受講生は中国、韓国のビジネス環境、経済状況、企業経営の特徴、ビジネスの習慣と価値観などが分かる。また日本企業がアジア諸国に進出する際に留意すべき戦略的課題も理解できる。	◎			○
	経営戦略論	2	2	秋	この講義では、経営戦略の意味と歴史、事業領域、戦略の策定、競争戦略などを講義する。到達目標は、この講義を通じて経営戦略論の基礎知識を習得し、それに基づいて経営戦略論の用語を説明できるようにすることが目標である。また、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。	○	◎	○	△
	人事管理論	2	3	春	この講義では、人事管理のとらえ方、日本企業の人事改革、戦略・組織と人事管理、採用管理、配置と移動の管理、人事評価、昇進管理、報酬管理、日本型成果主義などについて講義する。この講義全体を通じて、日本企業の人事管理に関する具体的な事例を活用して、人事管理に関する基礎的な理論を理解する。到達目標は日本企業の人事管理に関する基礎知識と基礎理論を理解・習得し、人事管理の仕組み、人事戦略と人事制度の基礎的な用語が説明できるようにする。また、人事管理に関して問題意識を持つと共に人事管理の諸問題への解決能力を高めることである。	△	◎	○	◎
	アジア企業論	2	3	秋	国際舞台で主役を演じる「アジアの企業と財閥」について多面的な知識の習得を到達目標とする。これにより、「グローバル化」の進む世界の中で、アジアの企業と財閥の位相と行方が分かり、グローバル人材になることが出来る。	◎	○		△
	国際経済論	2	3	秋	この授業では、国際貿易と国際通貨制度などの国際経済論の基礎と「アジア経済の発展とグローバル化」、そして国際貿易と通貨制度などの知識を習得することを到達目標とする。	○	◎		△
	環境ビジネス論	2	3	秋	環境問題や地域社会の問題は私たちの生活だけでなく、ビジネスにも影響や被害をもたらしている。講義では、現代の問題解決と持続可能な社会の構築に向けた産業界の取り組みについて、実践的な事例を挙げて解説する。環境ビジネスの方向性と多様な環境ビジネスのあり方について知識の習得と理解を深め、環境分野への就業・起業の基礎的能力の育成を図ることを目標とする。	◎		○	
ジャーナリズム論	2	3	秋	講義ではニュースの読み方、受け止め方、事件の報道と民の関係などについて学ぶ。また日本をはじめ世界に範囲を拡大し、世論形成とマスメディア、政治とマスメディアなどについて学習する。この講義によって学生はメディアとジャーナリズムに関するリテラシーを身につけ、またグローバル化した世界の中で飛び交うニュースや情報の見方、批判的視点を獲得することができる。	◎	○		△	
現代社会科目	国際社会学	2	1	春	この授業は、国境を越えた視点から現代社会の諸側面について考察する「国際社会学」についての入門的講義である。グローバル化するアジアや日本が直面する課題を捉えるうえで基礎的な知識や概念を学び、そのことによって、さらなる専門的学習に発展するために必要な思考力が身に付く。	◎	○		△
	コミュニケーション論	2	2	春	現代社会ほどコミュニケーション能力が重視されるようになった時代はない。この講義ではまずコミュニケーションを定義し、次にコミュニケーションを可能とする記号(情報)について説明し、最後に現代社会におけるコミュニケーションの変容について述べる。この講義により学生はなぜ現代社会においてコミュニケーション能力が重視されるのか、どうすればコミュニケーションを改善することができるかを理解することができるようになる。		○	◎	○
	アメリカ社会論	2	2	春	第2次世界大戦後、世界はアメリカ主導の世界秩序のもとで国際秩序が保たれていた。近年、中国の経済的・軍事的台頭、資源開発によるロシアの復活により、アメリカの影響力は徐々に低下してきている。この講義では多民族国家であり、自由主義、資本主義の旗手であるアメリカの歴史、政治、経済、文化について学習する。この講義を受講した学生はアメリカの社会、文化のみならず、国際社会のパワーバランスも理解できるようになる。	◎	○		
	国際関係論	2	2	春	国際関係論に関する基礎知識を踏まえて、グローバリゼーション進展下の東アジア各国の変化と問題点等の習得を到達目標とする。この科目を学ぶことにより、国際問題の見方・認識の手法を学び取り、異文化理解や国際理解を深めることができる。	◎	○		△
	韓国地域社会	2	2	春	この講義は、韓国という地域を研究するものであり、その地域を学ぶ理由は、地域の安定(平和)と繁栄の問題を考えることにある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。この講義を受講すれば、韓国という国と周辺隣国に関する客観的な知識が身に付けられ、かつその総合力・体系的な理解ができる。この科目を学ぶことにより、地域的な見方・認識の手法を学び取り、異文化理解や国際理解を深めることができる。	◎	○	○	△
	地域づくり論	2	2	春	「地域づくりに必要な知識と技能の理解」をテーマとし、地域づくりに必要な考え方を学んでいく。地域づくりは効果的プラットフォームの設計が成功のカギとなる。地域コミュニティのあり方、地域の文化や歴史及び伝統の捉え方と地域づくりへの活用方法など、地域づくりに必要なノウハウを実際の地域づくりの事例から学び、地域づくりに必要な知識を身につけ、地域づくりプラットフォームを設計する技能を身につけることを到達目標とする。	△	○	○	◎
	社会変動論	2	2	春	グローバル化、少子高齢化等の現代社会のマクロな社会変動が、個人の日常生活や人生選択に大きな影響を与えているという現実について理解を深め、社会的に分析する方法について学ぶ。具体的にはリスク社会の中でのライフキャリア、労働、消費、地域というテーマを個別に取り上げ、理論と現象とを結びつけて考察する。最新の社会情勢についての知識を身に付け、様々な社会問題について分析することができるようになる。	◎	○		△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
現代社会科目	日本社会論	2	2	秋	日本だけでなく世界が、人類の歴史そのものが大きく変わりつつある。第4次産業革命といわれるが、これまでの産業革命が工業革命であり、とりわけエネルギー革命(蒸気機関・内燃機関)であったのに対し、現代社会はPC/インターネットによる情報革命を経て、人口知能(AI)との共存という新たな次元に突入しつつある。今後30年以内に人類の生活様式は劇的に変化するだろう。この講義によって学生は、歴史的な大転換期にある日本社会の今を理解し、将来を見通すことで、人生の大まかな方向付けができるようになる。	○	◎		△
	中国地域社会	2	2	秋	現代中国の国家制度、一党支配下の権力構造、社会構造とその変容、経済改革、環境問題、社会保障問題、社会格差などについて様々な視点で捉え分析する。そのことによって、現代中国についての理解を深めることが出来、中国のこれからの動向を見ることが出来るようになる。		◎		○
	循環型社会論	2	2	秋	「持続可能な資源利用を促進し、循環型社会の考え方の修得」をテーマとし、循環型社会の必要性を学ぶと共に、資源の循環利用について学んでいく。また、資源循環型社会における企業経営のあり方を理解し、資源をマネジメントできる能力を身につけることを到達目標とする。		◎		○
	グローバリゼーションの社会学	2	2	秋	グローバリゼーションがもたらした社会的課題の解決をテーマとし、そのなかでも特に現代社会における人の地域移動・国際移動の現状と課題に焦点を合わせた考察をする。ダイバーシティが増大する実社会の現場において役立てられることを想定しながら、理論と個別の現象を結びつけるための知識と方法を身につけることを目標とする。	◎	○		△
	持続可能社会論	2	2	秋	「持続可能社会の理論と実践を理解する」をテーマとし、持続可能な開発の理念及びその後の持続可能な社会づくりの実際について教授する。持続可能な社会を実現するためには、環境・社会・経済のバランスのとれた開発が必要である。そのためには、多くの人々が社会変革のための価値観、行動様式、ライフスタイルを身につけなければならない。本講では、持続可能な社会構築に必要な知識と技能を身につけることを到達目標とする。	△	○	○	◎
	地域づくりワークショップデザイン	2	2	秋	「種々のワークショップ方法を活用した地域づくりの方法の理解」をテーマとし、地域づくりに必要なワークショップ技能を学んでいく。地域課題を解決し地域活性化を行うためには、対話の場や計画づくりの場が必要である。そのための手法として参加型の話し合いの場がある。様々なワークショップの手法を学び、地域づくりワークショップを企画運営できる能力を身につけることを到達目標とする。	△	○	○	◎
	現代社会の思想	2	3	秋	この講義では社会学および社会思想の歴史を学習する。古い社会思想や社会哲学を学んで何の役に立つのか。実は大いに役に立つ。現代民主主義を語るとき、Tホブズや国民民主権を唱えたJ.ロック、三権分立を体系化したC.モンテスキューの思想は欠かせない。現代経済もその根幹はベンサムやJ.S.ミルの功利主義思想(最小の費用で最大の利益を)にある。社会保障を考えるときマルクスの思想は決定的に重要だ。学生は社会思想を学ぶことにより、現代社会の基本的制度・民主主義・市場経済・法治主義・学校教育制度が確立された歴史を知り、より深く社会を理解することができる。	○	◎		
	地域マネジメント	2	3	春	地域を形成する要素は、自然、文化、人、経済である。グローバル化が叫ばれている現在の時代において、地域を形成するこれら資産の有効な利活用が求められている。本講義では、地域資産をめぐる諸問題を多角的な視点から取り上げて、問題点の把握と分析を試みる。地域資産を活用した地域主体の体制づくりを提案できる知識と能力を養うことを到達目標とする。	◎	△		○
	地域課題解決法	2	3	秋	人口減少や高齢化、核家族化や一人世帯・共働き世帯の増加など、社会構造が複雑かつ複層的に変化し、家族間でも地域でも、つながりの希薄化が進んでいる。社会を構成する最小単位の地域が抱える課題に対して、相互支援と解決の手法を事例から学ぶ。地域の社会的実態を改善するためのアプローチ手法について基礎的能力を身につけることが目標である。	△	◎	○	○
	現代社会の理論	2	3	春	社会とは何か？それは人と人との関係で構成されるシステムである。この講義では人間社会をコミュニケーション・行為・役割・集団(組織)・社会制度(システム)というマイクロからマクロにいたる様々な視点から現代社会を分析してゆく。それによって学生は、普段意識していない自分自身の行為と社会との関係が理解できるようになり、社会の中で生きていく、生きてゆくことの意味が理解できるようになる。	○	◎	△	◎
教育デザイン論	2	1	春	教育デザイン論における学びのテーマは、心理学や教育学の学問的知見や教育実践に基づいて、保育・学校教育機能の理解を深めるとともに、保育・教育に関わる職員の役割と仕事内容について理解できることである。到達目標としては、保育・教育現場で求められる教材開発やIT、ICTなどの先端技術を活用した学習カリキュラム、学習支援サービスなどの教育システムをデザインするための基礎的知識を修得することである。	◎	◎		○	
ICT教育デザイン	2	2	春	今日のSociety5.0社会の中で、ICT(情報通信技術)の利用・活用が促進される状況にあって、学校教育における情報教育では、児童生徒が自ら考え、主体的に判断・表現・行動するなど、児童生徒が主体的に学ぶための「情報活用能力」の育成が求められる。そこで、本講における学びのテーマは、児童生徒の情報活用能力の育成のためのICT活用の意義について理解することである。到達目標としては、課題の提示や知識の確認、疑似体験(シミュレーション)、表現活動等の様々な学校教育場面において、ICTを効果的に活用する方法を修得することである。	◎	○	◎		
思考フレームワーク入門	2	3	秋	ビジネスでよく使われる基本的な分析フレームワークを使って、課題解決のための論理的な思考方法を学び、事例を通じて分析手法を使えるようになる。目標としては、①テキストで紹介される分析フレームワークを理解する。②フレームワークを使って、事例の分析をする。③フレームワークを使って、プレゼンテーションができるようになる。	◎	とである。	○	○	
教育と社会	2	2	秋	本講義は、家庭、学校そして地域社会のなかで生起する「社会現象としての教育」を、教育社会学の理論をもとに考察することをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 ① 日本の社会と教育の歴史の変遷を理解し、多角的な視点から批判的に考察する力を身につけることができる。 ② 家庭、学校、地域社会で営まれている教育、さらには、子どもの生活における現象を経済・社会・文化などと関連付け、その構造を理解することができる。 ③ 近年の教育政策の動向を理解し、未来の教育と社会の在り方について自分の考えを論理的に説明することができる。	○	◎		◎	
日本の教育システム	2	3	春	本講義は、日本および諸外国の教育制度を知り、日本の教育改革の動向や教育制度の課題について理解を深めることをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 ① 日本の教育制度が形成されてきた経緯、教育制度に関する政策・法・行政の意義と構造、近年の教育改革の動向について理解する。 ② 教育法規や制度と学校における実践的な諸課題の関連について理解を深めることができる。 ③ よりよい教育を行うための教育制度の在り方について自分の考えを論理的に説明することができる。	◎	○		○	

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
教育デザイン	経営倫理と教育	2	3	春	「経営倫理教育の内容と手法の理解」をテーマとし、企業の存在意義と企業経営のあり方という観点から経営倫理教育の内容と手法を学んでいく。倫理的価値観を持つ経営理念の必要性、従業員や消費者などのステークホルターに対する企業の倫理的な責任、企業の持続性に対する責任を問う経営倫理を、企業の社会的責任と関連づけながら学んでいく。持続可能な社会の構築における企業の役割を理解し、他者に伝えることができる能力を身につけることを到達目標とする。		◎	○	△
	社会福祉	2	1	春	少子高齢化社会の中で、保育者は子どもの保育や子ども家庭支援の役割を担っている。それらを果たすために必要な社会福祉の知識や技術について理解することをテーマとする。社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の範囲や法体系、相談援助の方法(ソーシャルワークの技術や方法)、利用者保護に関わる仕組み、社会福祉の動向と課題などについて理解することを到達目標とする。	◎	○		△
	保育の計画と評価	2	3	春	全体的な計画の編成に伴う基本的な理論と技法を理解することを目的とする。保育における計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造とそれぞれの役割とその関係性について理解することを目指す。子どもにとって大切な遊びを中心とした保育カリキュラムについて、理論的な理解と子どもの発達を見通した保育のあり方、長期・短期の指導計画の意味とその実質的内容など、保育環境の構成にも考慮することで理解する。	◎	○	◎	○
	子ども家庭福祉	2	1	秋	子ども家庭福祉の概要を理解し、これからの課題や展望について学ぶことをテーマとする。現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について、子ども家庭福祉の人権擁護について、子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解することを到達目標とする。	◎	○	△	△
	子ども家庭支援論	2	3	春	テーマは、家庭支援の意義とその方法を学ぶことである。自分の生い立ちや家族関係について、あらためて振り返り、自分への影響に気づくことができる。子どもと家庭に関わる様々な問題に対して、どのような支援方法があるのか、基本的な方法を思い出すことができる。現代の家族や家庭のあり方、家族を取り巻く環境、そして家庭支援に関わる知識を得ることによって、専門職として必要な基本的な価値観、知識、技術を身につけることができる。	○	◎	△	
	保育の心理学Ⅰ	2	2	春	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。到達目標は、子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解しようとする心構えを形成することである。	◎	◎		○
	社会的養護Ⅰ	2	3	春	「児童の社会的養護」と「児童の自立支援」をテーマとして、施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことを目標とするが、受講により社会的養護の現状と課題について理解できる。	○	○		○
	保育原理Ⅰ	2	1	春	保育に携わる上で基礎概念となる保育の原理を理解すると共に、より柔軟な保育理念を身に付けるための考察力を培うことを目的とする。保育における歴史や思想を知ることで、現在の保育に至る流れをより深く理解してほしい。さらに、乳幼児期の子どもにおける発達を考察し、保育内容を考慮した上での計画の意義・重要性を知ってほしい。保育者とは？この疑問に対して、自らの答えを見つけ出してほしい。	◎	◎		○
	保育原理Ⅱ	2	1	秋	現在保育現場において求められているものは多様化し、細分化されてきている。当然、保育者自身に求められるものも変わってきている。今保育者として求められているものとは何か？子どもたちにとっての保育者とは？保護者にとっての保育者とは？そのような疑問に対する答えを、役割と論理・制度的位置づけ・専門性などの面から自ら見つけだすことのできる考察力と保育者観を身につけてほしい。	○	◎		○
	教育原論(初等教育)	2	2	秋	教育原論は、教育の基本的概念や教育の理念などについて学ぶもので、教職科目の中でもとりわけ重要な位置を占めている。この授業では到達目標を次のように設定している。 (1)教育の基本的概念を身に付けるとともに、子ども、教員、家庭、学校等教育を成り立たせる諸要因と相互の関係を理解する。 (2)家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開等教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 (3)家庭や子ども、学校や学習などに関わる教育の思想や代表的な教育家の思想を理解する。	◎	◎		○
教育心理学(初等教育)	2	2	春	1. 授業場面をはじめとする学校生活において、生徒個人・生徒集団・生徒と教師との関係における心理学的知識を理解し、教育的課題の解決に生かせるようになる。 2. 生徒が学校で示す様々な心理学的問題を理解し、その対応に生かせるようになる。	◎	◎		○	
社会調査士関連科目	社会調査法Ⅰ	2	1	春	社会調査の方法に関する最も基本的事項について学習する。社会調査士資格取得を希望する学生が最初に受講すべき科目であり、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのA科目にあたる。	◎	○	◎	
	社会調査法Ⅱ	2	1	秋	社会調査の結果を分析できるようになるための基本的な方法や概念を学習する。社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのC科目にあたる。	△	○	◎	
	社会調査法Ⅲ	2	2	春	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法等)、調査データの整理(コーディング、データクリーニング等)の理解を通して調査設計と実施方法を習得する。	◎	○		○
	社会調査統計学Ⅰ	2	2	春	自然現象や社会現象についてのデータを、統計的にまとめたり分析したりすることは、さまざまな分野での計量的解析、計画立案、意思決定に有用なことである。本講義では、その分析などを行うにあたって必要な統計学の基礎的知識を習得する。本講義のラーニングアウトカムズは「数量的スキル」「論理的思考力」「課題発見力」である。	◎			○
	社会調査統計学Ⅱ	2	2	秋	この講義では統計学の基礎を学習したものと前提し、より高度な統計的分析の習得を目指す。この講義を終了すれば受講生はカイニ乗検定や重回帰分析、ベインジアン決定理論など多変量解析の初歩までを習得できる。	◎			○
	地域社会分析	2	2	秋	聞き取り調査、参与観察法、フィールドワーク、インタビューなどの手法を紹介するとともに、データ分析の方法について、ライフストーリー分析、ドキュメント分析、フィールドノート、記述と解釈などについて説明する。受講生は、単にフィールドワークの技法を学ぶだけでなく、フィールドワークを支える思想、社会学の視点、社会調査とは何かについての知識を身につける。		◎	◎	○
	社会調査実習	4	3	集中	その他の社会調査士関連科目で学んできた知識を踏まえて、社会調査の一連のプロセス(調査の企画、フィールドワーク、データ分析、プレゼンテーション、報告書作成)を実際に経験する。自ら社会調査を行ううえで必要となる、実践的な能力が身に付く。社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのG科目にあたる。	○	◎	◎	
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	3	春	社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの基本的な知識を得ることができる。ソーシャルワーカーとしての価値、知識、技術を身につけることが目標である。	◎	○	△		
相談援助の理論と方法Ⅱ	2	3	秋	社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの基本的な知識を得ることができる。到達目標は、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークなどの広範なソーシャルワークの価値、知識、技術を具体例を交えながら身につけていくことである。	◎	○	△		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
心理演習Ⅰ(面接)	1	3	秋	カウンセリングについての基礎的な知識とスキルを学ぶことがこの授業のテーマである。到達目標は、カウンセリングの諸理論、技法、アセスメントなど、カウンセリングを行う際に必要な知識とスキルの基礎を習得することである。			○	○
健康・医療心理学	2	2	秋	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントの知識を習得することである。	○	○		
子ども家庭支援の心理学	2	3	秋	生涯発達の心理学理論を中心に、発達のプロセスの概要を理解するとともに、初期経験の重要性、発達課題などについて学習する。それらとの関連の中で、家族関係、子育て家庭の課題、子どもの心の健康について学ぶ。				
保育の心理学Ⅱ	1	2	秋	子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通じた学びの課程、保育における発達援助の3つの観点から保育の心理学の理解を深めるといのがこの演習のテーマであり、単なる座学としての知識ではなく、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになることが到達目標である。	○	◎	○	△
臨床心理学概論	2	3	秋	臨床心理学についての基本的な内容を学習し、臨床応用につながるための援助技法の理論を理解する。	◎			
保育原理Ⅲ	2	2	春	保育所における保育の基盤となる保育所保育指針は、とても重要であり十分に理解されるべきものである。この講義を通して保育所保育指針における総則を含めた全7章を深く理解し、保育制度の現状を学ぶ。さらに、現代の保育課題に対しての知識を高める。	◎		○	△
子どもの保健	2	2	春	子どもの保健は日常生活を実践の場とし、子どもの心と身体の健康の保持・増進を目的としている。子どもの保健ⅠAでは、常に発達する存在である子どもの健康の保持および増進につとめられるよう、生理的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や子どもの病気を理解し、子どもの健康を守るための知識を習得することを目標とする。	○	△		△
子どもの健康と安全	1	2	春	少子化、核家族化などの社会現象に伴い、子どもがおかれている環境は変化している中で、心と身体の問題、障害のある子どもへの対応、危機管理、健康づくりと地域保健活動などの理解を深め、子どもの健康問題の解決法を習得することを目標とする。		△	○	△
子どもの食と栄養Ⅰ	1	3	春	心身の成長、発達が急速に進む小児期の食生活や栄養は、豊かな人間性を育て、生涯を通じた健康、特に生活習慣病予防ということにもつながっていくものである。しかし、私たちを取り巻く生活環境、社会環境は複雑であり、いろいろな問題が山積されている。そのような中で、将来保育士を希望する人たちは、食生活や栄養、食品に関する基礎知識を身につけ、食と栄養の基本をしっかりと学び、先ず、自分自身の健康管理に留意しておく必要がある。		○		△
子どもの食と栄養Ⅱ	1	3	秋	① 各時期の栄養・食生活の特徴を知る。 ② 生活習慣病予防の面からも、食生活が家族の健康や生活、地域と密接な関係があることを理解する。 ③ 専門職である保育士が子ども達にはもとより、保護者に対しても支援ができるように学ぶ。	△	△	○	△
乳児保育Ⅰ	2	2	春	0歳児保育、1歳児保育を中心として学ぶ。発達の未熟性を特性とするこの時期の保育は、乳幼児突然死症候群を含めて、健康、安全面に十分配慮し、保護者との協力関係の下に、慎重に保育を行うことが大切であるが、そのことの意義について学ぶことができる。	◎	◎	◎	◎
乳児保育Ⅱ	1	2	秋	1歳児、2歳児を中心として、子どもの発達理解、子どもや保護者への援助のあり方について学び、子どもの命の尊さ、命を育むことの意義について学ぶことができる。また、温かな人間性と諸科学の理論に裏付けられた保育実践力を身に付けることができる。	◎	◎	◎	◎
乳児保育Ⅲ	1	3	春	集団生活の場における乳児保育の問題点および保育内容について学ぶとともに、月齢による発達の理解と保育実践について、日案や月案による実践計画ならびに記録方法などについて正しく身に付けることができる。	◎	◎	◎	◎
障害児保育Ⅰ	1	2	春	それぞれの「障害」についての基礎的な知識をする。また、現在の保育現場における、現状と課題について考える。 子ども、家族の持つ困り感に気づき、保育士としてどのような支援が求められるか、実際に障害のある子ども、またその家族と関わりを持ちながら、それぞれの障害特性を理解した上で具体的な支援方法を習得する。	◎	○	△	△
障害児保育Ⅱ	1	2	秋	最近では、さまざまな障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所において地域の子どもたちと一緒に生活をする「統合保育」が進んでいる。地域の中でともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善につながることは明らかであり、その支援が「保育」の任務でもある。また、障害を持つ子どもたちとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、「障害児保育」(2年次後期開講科目)で学んだ基礎知識をもとに、次の3項目を中心に深める。 第一に、障害児保育の入り口として、障害の特徴、障害児保育の概念について理解してうえで、「統合保育」について考える。 第二に、障害別の保育方法について理解してうえで、保育所・幼稚園における保育計画について実践的に学ぶ。 第三に、児童相談所や発達支援センターなど障害児保育に関する関係機関との連携、障害児を持つ保護者に対して保育者としての支援のあり方について考える。	○	○	◎	△
障害児保育Ⅲ	1	3	春	最近では、さまざまな障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所において地域の子どもたちと一緒に生活をする「統合保育」が進んでいる。地域の中でともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善につながることは明らかであり、その支援が「保育」の任務でもある。また、障害を持つ子どもたちとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、「障害児保育」(2年次後期開講科目)で学んだ基礎知識をもとに、次の3項目を中心に深める。 第一に、障害児保育の入り口として、障害の特徴、障害児保育の概念について理解してうえで、「統合保育」について考える。 第二に、障害別の保育方法について理解してうえで、保育所・幼稚園における保育計画について実践的に学ぶ。 第三に、児童相談所や発達支援センターなど障害児保育に関する関係機関との連携、障害児を持つ保護者に対して保育者としての支援のあり方について考える。	○	○	◎	△
社会的養護Ⅱ	1	3	秋	児童の社会的養護と「児童の自立支援」をテーマとして、施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことを目標とするが、受講により社会的養護の現状と課題について理解できる。	◎		○	○

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
保育内容指導(健康)	1	3	春	●生涯にわたる心身の健康の基礎を培う重要な幼児期における、運動、生活習慣は、体格、運動能力の発達のもとより、心身の病気になるための防衛体力、さらには、安全という視点からも大きな影響を及ぼす。こうした健康という保育内容の歴史的・概括的枠組みから、その具体的な留意点までを理解することを目的とする。 ●保育現場での運動指導の計画策定、指導案の作成、指導技術の習得を到達目標とする。	○	○	◎	◎
保育内容指導(人間関係)	1	3	秋	幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活できるようになるために、保育に求められることは何かを理解する。 そのためには保育内容の領域「人間関係」について理解すると共に、乳児との応答関係が形成されるための、保育者の関わり方や環境作りの重要性について理解する。そして、乳幼児が人と関わる力を身につけていくための現代的課題についても理解する。	◎	○	○	◎
保育内容指導(環境)	1	2	秋	幼児期の環境を通じた原体験の質は、障害を通じ極めて重要な要素となる。幼児の自然認識、時間・空間認識を刺激・促進するには、幼児に野外の自然を感じさせ、物に触れることが大切であることを学び、同時に幼児にとっては取り巻く環境の中で、身近な動物・植物の名前の認識も大切であることを学ぶ。また「これは何」「どうして空は青いの」「鳥の音がいくつ聞こえる」などの質問に対し、子供に回答させるなどの手法を学ぶ。環境の原体験が成長にとって極めて重要で、幼児を取り巻く環境にどのようにふれさせるか、その内容・方法の基礎を具体的事例や討論から学び、環境を有効に活用した保育教育内容の基礎を修得する。		○		○
保育内容指導(言葉)	1	2	秋	テーマ:「子どもの言葉の獲得と発達および保育者の援助」について理解する。 到達目標:①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「言葉」のねらいおよび内容について把握する。 ②人間としての発達の視点から幅広く言葉の問題をとらえ、子どもの言葉の獲得と発達について理解する。 ③子どもの言葉の獲得における保育者の援助・指導のあり方と、言葉の発達に即した環境構成のあり方について理解を深める。	○	△	◎	◎
保育内容指導(表現)	1	2	秋	「子どもの表現活動の理解および造形・身体表現の技法と技術」をテーマとする。前半の身体表現では、音楽を用いた表現の方法を学習した上で、実際に作品作りを行い表現力を養う。後半の造形表現では、環境づくりの課題として「子ども参加の空間デザイン」をテーマに壁面空間のグループ製作を通して保育内容の指導に必要な造形表現力を養う。	○	○	◎	◎
保育内容指導(保育内容総論)	1	3	秋	保育内容を総合的に学び、保育現場において展開される園生活や保育者の位置づけを考える。乳幼児期における1年の違いをしっかりと理解し、発達基準として子どもの成長を理解することに努めることを望む。また、実際に指導計画を立案し、グループディスカッションをすることで指導案の重要性を認識してほしい。	◎		○	△
基礎技能(音楽A)	1	2	秋	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する技術の習得」であるが、指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そこで本講座では、そのためにはどのような音楽的知識・技能が必要かを理解し、それら(ソルフェージュカ、歌唱力、器楽演奏の基礎力、楽典の知識)の習得を目標とする。	◎		○	
基礎技能(音楽B)	1	3	春	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する技術の習得」であるが、指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そこで本講座では、音楽Aで習得したソルフェージュカ、歌唱力、器楽演奏の基礎力、楽典の知識をベースに、動きのリズムのためのピアノ曲演奏、子どもの歌が素歌で歌える、子どもの歌が必要に応じて弾き歌いができるなど、音楽教育の幅広い領域での実践を目標とする。	○		◎	
基礎技能(図画工作)	1	2	春	「図画工作に関する基礎的な技能の習得」がテーマであり、保育の現場において十分な実践指導ができる能力の養成が目標である。	○	△	◎	◎
基礎技能(小児体育)	1	3	秋	児童の体力・運動能力は総じて低下の傾向を示しているといわれている。 こうした現状の原因として、幼児期・児童期における運動遊びの減少が指摘されている。 そこで、体力・運動能力の基礎を培う幼児期・児童期の運動の質的向上をテーマとし、子どもの発達段階に即した運動遊びを理解することを目的とする。	○	◎	○	◎
基礎技能Ⅱ(音楽)	1	3	秋	テーマは「保育・教育実践における音楽指導力の習得」である。本講座では、音楽A・Bで習得した音楽の基礎技能・知識とその応用能力の習得過程で発見したより専門的な課題、特に、器楽指導及び合奏、身体表現やオペレッタ創作、特別支援に有効な音楽療育的な音楽活動ができるようになることを目標とする。	○		◎	
基礎技能Ⅱ(図画工作)	1	2	秋	「図画工作に関する基礎的な技能の習得」をテーマとして、造形指導に関するより幅の広い知識と造形技能の習得を図り、より高い実践指導力を身につける。	○	△	◎	◎
保育実習指導ⅠA	1	3	春	授業の到達目標及びテーマ:保育士養成過程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことを目的とする。	○	◎		△
保育実習指導ⅠB	1	3	秋	保育士養成課程において習得した教科の知識・技能を基礎とし、これらを児童福祉施設等(保育所以外)で実践する能力を身につけることをテーマとする。到達目標として、①保育実習の意義・目的を理解する。②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する、など	◎	◎	○	◎
保育実習指導Ⅱ	1	3	春	保育実習Ⅱについての実習内容の理解と準備及び実習後の振り返り 保育士養成課程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことが重要である。そのために学生が、保育実習ⅠからⅡへとつなげるには自身の学びがどのように発展し、実習へと展開されるべきなのかを理解することができる。		○		△
保育実習指導Ⅲ	1	4	春	保育実習Ⅰの内容を深め、総仕上げの実習をするための準備をすることをテーマとする。到達目標として、①保育実習の意義と目標を理解し、保育について総合的に理解する。②これまでの実習や既習の教科目内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた改善について、実践や事例を通して理解することなどがあげられる。	◎	◎	○	◎
保育実習ⅠA	2	3	春	保育所実習における観察や子どもとのかかわりを通じて子どもへの理解を深めるとともに保育所の役割や機能を具体的に理解する。また、学内学習を踏まえ、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。さらに、保育者としての職業倫理、特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権の尊重について具体的に学ぶ。	◎	◎	◎	◎
保育実習ⅠB	2	3	秋	児童福祉施設等の利用児・者を理解し、施設保育士の役割や業務内容を理解することをテーマとする。到達目標として以下があげられる。①児童福祉施設の役割や機能を理解する。②観察や関わりを通じて、利用児・者への理解を深める。③既習の教科目内容の踏まえ、利用児・者や家族(家庭)への支援について理解する。④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。	◎	◎	◎	◎

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
保育実習Ⅱ	2	3	春	1. 保育現場を実際に触れ、実践において必要な日々の心構え、子供と関わる上で重要となる保育理論、そして体調管理の重要性を感じてほしい。 2. 地域社会や子どもひとりひとりの持つ家庭環境の違いを考慮し、保育実践におけるニーズに対する理解力・対応力について考える。 3. 毎日の保育場面から、自己の持つ知識・経験・技術における課題を明確にし、自己解決力を身に付ける。	◎	◎	◎	◎	
保育実習Ⅲ	2	4	春	保育実習Ⅰの内容を深め、総仕上げの実習をすることをテーマとする。到達目標として、①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する、②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得することなどがあげられる。	◎	◎	◎	◎	
子育て支援	1	3	秋	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性を具体的に理解できる。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できるようにする。		○	◎	△	
保育実践演習Ⅰ	1	3	春	知識と技術を実践へ繋げる。保育に関する課題について考察するとともに、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。また、これまでの自らの学びを振り返り、保育士としての必要な知識・技能を確認し、自らの課題を見出す。	◎	◎	◎	◎	
保育実践演習Ⅱ	1	3	秋	保育所実習での経験を振り返り、知識と技術の融合について捉え直し、考察する。保育士として勤務することについて具体的にイメージし、自分なりに将来の展望を描く。保育者としての資質向上を図り、保育職に従事するという自覚と意欲を高める。	◎	◎	◎	◎	
演習・卒業論文	基礎演習Ⅰ	2	1	春	日本人および留学生の新入生がスムーズに大学生活を送ることができるために必要な基礎知識、例えば連絡事項のほとんどは掲示板によって通知されること。図書館の利用方法やコンピュータ室、カウンセリングルームの使い方、設備の使い方などを理解する。また各ゼミ単位でレポートの書き方や大学での勉強の仕方などを理解する。図書館のどこに、どのような本があるか、教員が使用する教科書や参考書はどこにあるかを知ることは大学で学ぶための第一歩である。またコンピュータ・ルームの場所と使用方法を知っておくことも重要だ。この演習によって学生は大学の利用法を知り、効率的に学習する能力が身に付く。	◎	○	△	
	基礎演習Ⅱ	2	1	秋	基礎演習Ⅱでは社会学部経営社会学科の教員7名がどのような研究をしているかを学生に示し、それによってこの学科で何が学べるかを概観することを目的とする。また前期同様、学生たちの日本語能力を向上させることを目的とした個別ゼミを行う。各教員が自らの研究を紹介することで、次年度からのゼミナール選択の情報を得る。また日本語で書かれた文章を読み、内容をまとめることによって読解力と文書力が向上する。	○		○	
	演習Ⅰ	2	2	春	教養教育と専門教育の有機的関連を考察することによって、専門分野における総合的な課題探究能力・主体的判断能力が向上する。	△	○	○	○
	演習Ⅱ	2	2	秋	教養教育と専門教育の有機的関連を考察することによって、専門分野における総合的な課題探究能力・主体的判断能力が向上する。	△	○	○	○
	演習Ⅲ	2	3	春	研究テーマの対象となる問題の背景・現状の考察、資料・文献の収集と関連論文の精読をして、卒業論文の完成に向けて取り組むことができるようになる。	△	○	○	○
	演習Ⅳ	2	3	秋	研究テーマの対象となる問題の背景・現状の考察、資料・文献の収集と関連論文の精読をして、卒業論文の完成に向けて取り組むことができるようになる。	△	○	○	○
	演習Ⅴ	2	4	春	研究テーマを明確に定め、卒業論文の完成を目指して、調べてきたことを毎週発表させて、問題点の検討を行なう。	△	○	○	○
	演習Ⅵ	2	4	秋	研究テーマを明確に定め、卒業論文の完成を目指して、調べてきたことを毎週発表させて、問題点の検討を行なう。	△	○	○	○
	卒業論文	4	4	通年	自らの研究テーマについて課題や問題点を洗い出し、文献の精読と批判を通して考えをまとめ上げ、卒業論文を完成させる。	△	○	○	○